炭酸カルシウム剤が‘日南１号’の日焼け症軽減に及ぼす影響

‘日南１号’は温州ミカンの中でも特に日焼け症の発生が問題となる品種である。そこで、炭酸カルシウム剤を活用した果実の白色化による熱吸収軽減が日焼け症発生に及ぼす影響について調査した。

試験設計

供試樹　:27年生　日南1号
栽培体系:露地栽培
供試剤 :ホワイトコート 50倍
散布日:2024年7月17日
散布規模:樹別散布(3反復)


処理後の‘日南1号’

収穫直前の果実



雨が当たらない面は薬斑が残る

選果時に拭き取る必要がある。

日焼け症発生率・表面温度

試験区	発生率(%)	表面温度(℃)
炭酸カルシウム剤	47.2	36.7
無処理	54.1	37.7

調査日:2024年9月19日

果実品質

試験区	糖度(° Brix)	クエン酸含量(g/100ml)
炭酸カルシウム剤	8.5	0.85
無処理	8.7	0.74

調査日:2024年9月20日

果実品質への影響は小さいと考えられる(統計的な有意差はなし)

- 炭酸カルシウム剤散布処理で日焼け症の発生が軽減する傾向を示した。
- 果実品質への影響は小さかった。
- 選果時に薬斑が残るので注意が必要である。

愛媛県 農林水産研究所 果樹研究センター みかん研究所